

申請者	学科名	デザイン工学科	職名	助手	氏名	中原 嘉之 印
調査研究課題	合版の成型技術を利用したデザイン表現と商品価値に関する研究					
交付決定額	200,000					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	中原 嘉之	デザイン学部・助手	プロダクトデザイン	研究統括リーダー	
	分担者	森下 眞行	デザイン学部・教授	プロダクトデザイン	研究アドバイザー	
調査研究実績の概要	<p>・研究概要</p> <p>【合版の成型技術を用いた工法の現状調査・分析】 今日まで合版の成型技術は建築や家具の分野を中心に利用されてきたが、近年は工業製品の分野にもその活用範囲が広がってきている。国内の木材資源活用の視点からも、新しい分野での独創的技術の活用は地域資源のみならず、地場産業育成の視点からも重要な研究対象であると考えられる。 本研究では、合版の成型技術の特性を研究し、デザインを活用した独創的な技術分野における商品の高付加価値化を目指した研究を行う。</p> <p>・研究実績</p> <p>1 【現在の動向の調査・分析】 建築や家具の分野での合版の利用は、主にそのコスト（低コストで平板を生産できる）と力学的特性（積層による強度の均一化）の良さを活かした物であった。</p> <p>しかし、現在、地域資源の活用が求められている社会情勢の中、合版成型技術、特に積層技術を活かした高付加価値製品の開発が、地域材を用いたプロダクト製品の分野で進んでいる。 これはコストや力学的特性を活かすだけでなく、積層を利用した意匠性の向上に着目した製品開発となっている。</p>					

--	--

2【合版成型技術の先行事例の調査】

合版成型技術を用い意匠性の向上を図った製品の先行事例の一つを挙げる
・バンブーステアリング（ミロクテクノウッド）



この製品では、竹に曲げ積層加工を施し、意匠曲面と木目を統一させることで意匠性を向上させる事に成功している。

また、活用できる用途が限定的だった材料の新たな活用方法となっている。

3【まとめ】

今年度の調査・分析より、プロダクト製品の分野、特に高い価値を求められる製品への合版成型技術、特に積層技術の展開が確認できた。

また、先行事例において地域材の新たな価値の創造に成功しており、本研究を進めることにより、木材資源のより価値の高い活用方法が提案できる可能性が確認できた。

以上により、今後は合版成型技術、特に積層技術に着目し、具体的な製品デザインへの展開と、独創的な技術・手法の確立を目指し、研究を続ける。

調査研究実績
の概要

成果資料目録